

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-104

学校名・団体名	大津町立大津小学校
HPアドレス	http://es.higo.ed.jp/oozu/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	夢を持つ子どもの育成を目指したNIE活動の推進
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本町の教育理念は「夢を持ち夢を育み夢を叶える教育実践」とあり、また本校の教育目標は「夢を持ち笑顔と自信にあふれる子どもの育成」とある。つまり、本町・本校の教育目標のキーワードは「夢」である。子ども達が生きる上で最も大切なものは、この夢である。子ども達が今これからは生きる上でどういう根源的な問い、願いを持っているかを捉え、どんな不安な中にあっても人間として生きる価値があることを酌み取らせたいと考えた。新聞には、何かを成し遂げた人や挑戦する人が多く紹介されている。人としての生き方について考えさせる絶好のテキストになり得ると考え、NIE活動に取り組んだ。</p>	

1 設定の理由

現在の子ども達を取り巻く環境を考えると、パソコン・インターネット・携帯端末等の情報機器が普及し、これら通信手段は社会の隅々まで浸透している。このことは子ども達の成長に何らかの妨げになっているように感じる。そもそも教育とは、人が人を人としてあるべき姿に導く行為である。人間関係を築きコミュニケーションを図る中で育まれる内面的成長がそれであると思う。本校は 626 名の大規模校である。教育目標は「夢を持ち笑顔と自信にあふれる子どもの育成」とある。全体的に学力の定着率は良好であるが、文章を読み取る力や自分の考えを表現する力に欠ける。新聞は同じ記事でも各社によって違いがある。つまり、ものの見方には多様性がある。新聞を活用することで多様なものの考え方を育てることができるのである。新聞を活用した授業で確かな学力を育むと共に、人の心まで動かす記事の及ぼす力のあることを信じ NIE に取り組んだ。

また、新聞は単なる情報伝達のための媒体ではなく、読む人へのメッセージが込められており、これからの成長のステージで学ぶ力を培う土壌になり得ると考えた。不透明で希望を持ちにくい社会だからこそ、子ども達には早い時期から新聞に触れ、正しい情報で豊かな心を育み、夢を持って生きて欲しい。そんな願いで新聞活用を図ったのである。

2 取組の実際

(1) 環境作り

子ども達は新聞に対して関心がなく、図書室に子ども新聞と一般紙を置いてあるが読む子どもは殆どない。学級でも新聞を通して子ども達と会話する機会もなかった。そこで、日常的に身近に新聞に触れるよう 18 学級全てに希望する新聞を 1 紙ないし 2 紙購読した。NIE の推進には先ず学級に情報を仕入れる環境の整備が一番と考えたのである。職員室では学習素材探しで新聞に目を通す光景をよく見かけた。

また、NIE の推進には職員の共通理解が必要である。5 月の校内研修にて NIE 推進部から「NIE 取組について」を全職員に提案した。実践の狙いを、教育に新聞を活用し、新聞に親しみを持たせ、自らの生き方を考えさせることと、新聞で知り得た情報を友だち同士で紹介・交流する中で、心豊かな子どもの育成を図る。この 2 点にして進めた。



(2) 全校 NIE タイムの設定

月初めの第 1 水曜日を全校 NIE タイムとして位置づけ、全学級で朝自習の時間、学年に応じた活動を行った。その日は全学級に当日の新聞 3~4 紙ずつ配布し、テーマに沿った活動を実施した。

- ・ 5 月 — 「NIE タイムの取組の内容について知ろう」
- ・ 6 月 — 「新聞記事の紹介をしよう」
- ・ 7 月 — 「興味を持った記事を友達に紹介しよう」
- ・ 9 月 — 「記事を紹介し感想を出し合おう」
- ・ 10 月 — 本校が研究開発で推進している新教科「生活数理に関する記事を見つけよう」
- ・ 11 月 — 「人の生き方に関する記事を見つけ感想を書こう~夢・希望・生き方につなげよう~」
- ・ 12 月 — 「記事を読んで 1 分間スピーチをしよう」
- ・ 1 月 — 「好きな記事を読んで意見発表会をしよう」
- ・ 2 月 — 「冬の季節を感じる記事を見つけよう」



(3) 新聞を活用しての授業実践

全学級に新聞を毎日購読しているので、いつでも授業に活用できる状態にあり、教材として日常的に活用ができた。

- ・ 低学年 — 国語科の授業では「ことばあつめ」「カタカナさがし」「すきなしゃしんさがし」「かんじさがし」「しゃしんをみておはなしをしよう」を実践。生活科では「きせつさがし」で活用できた。その結果、言語活動の推進を図ることができた。また、生活体験を豊かにし、社会への関心を持つことができたようになった。
- ・ 中学年 — 国語科では「自分に興味のある記事を読もう」「見出しから記事の内容を考えよう」の授業実践を行った。算数科では「大きな数」「およその数」で活用できた。子ども達には情報収集能力・問題発見能力の育成を図ることができた。



- ・高学年 — 新聞記事を単なる知識や情報として捉えるのではなく、仕事とのつながりを意識させ、そこから社会に問題点を発見する能力の育成にも力を入れた。国語科では「表現を工夫して書こう」「平和のとりでを築く」「新聞記事を読み比べよう」、社会科では「水俣学習」「平和学習」で活用できた。子ども達は、知らない世界を知り命に触れる学習ができた。これらの取組で、人間の生き方に迫ることができた。



(4) 平和教育での実践

6年生の長崎修学旅行の事前学習として、広島・長崎の8月6日、8月9日の新聞を購入し、教材として活用した。被爆体験記や戦没者への鎮魂の手記を紹介し、戦争を肌で知る貴重な体験を知ることができた。そんな戦争の悲惨さを学んで修学旅行に臨んだ。そこで、長崎での平和公園にての平和集会では、周囲の観光客の胸を打つ程の内容のある集会ができた。



(5) NIE ファイルの活用

4年生全ての子ども達にA4版のファイルを配り、NIEシートをストックしていった。毎月のNIEタイムで、記事を読んだ感想や意見等を書いたシートを教室に掲示した。友達の感想を読み合うことで、ものの考え方の多様性に気付き、友達の良さの発見にも効果があった。月を経る度に子ども達の読解力と表現力に成長が見られた。読むことへの抵抗がなくなり、自分の考えを素直に表現できるようになった。

(6) NIE ノートの活用

各学級にNIEノートを数冊配布した。活用の基本は新聞記事から一つを選び、選んだ理由や記事の感想・意見を書き綴るものとした。養護教諭が保健室にて子どもに好きなスポーツ選手の話をしたことがきっかけで、ある時その選手の記事を保健室に見せに来たという事があった。その後、その子どもはNIEノートに記事を貼り感想を書いて見せに来るようになった。子どもと養護教諭の交流も生まれていた。

(7) エコバッグの制作

古新聞の再利用を図ってエコバッグ作りを5年生で実施した。子ども一人に新聞紙5~6枚準備し「読んだ後はエコにも貢献」としたエコバッグ作りに挑戦した。冬休みに主幹教諭が制作に試みた作品を見本に指導した。13の工程を経て、とても新聞紙のみで作ったバッグとは思えないすてきな、A4版対応のトートバッグの出来上がりであった。



(8) その他の実践

本校には外国にルーツを持つ子どもがいる。4年生では、台湾や中国の新聞を取り寄せ文化の違いを知る授業を試みた。共生の精神の育成を図った。6年生では、資源回収を実施。7月から古新聞の収集計画を立て、NIEで購読した新聞の約半分の量を業者に売り、卒業に向けた感謝の会への資金作りに役立てた。

3 成果と課題

この1年間の取組で、子ども達は新聞を身近なものとして親しみを持って触れるようになった。子ども達には新聞を読むことは難しいと思っていた。しかし、新聞に親しむことで記事を判読する力が育っていた。難しい漢字や語彙をとばして読んでも概略をつかめる読みができるようになってきた。そこに、知らない世界を知りたいという“知的な背伸び”ができ、新聞を読む喜びを感じるようになった。1年生では「子ども同士で記事を読んで感じたことを伝え合っていた」。4年生では「記事をしっかりと読む経験を積み重ねたことで、国語の読解問題の長文を最後まで読もうとする子どもが増えてきた」。5年生では「大切なところを読み取って感想を書くなど、読み取る力がついてきた」と成果を挙げていた。また、NIEでの取組には「新聞に親しむ」活動と「新聞を活用する」活動がある。子ども達は日常的に親しむことで活用する力へと成長することが分かった。

課題としては、低・中・高学年の発達段階と教科の学習内容をしっかり踏まえた新聞活用法を考えていくべきであった。新聞活用は教材開発のチャンスでもある。新しい時代の教育を創造する志を高く掲げ、今後も教育を高めるNIEに取り組んでいきたい。